



人間ドック、お産、そして看取りまで。「かかりつけのちょっと大きな病院」として地域住民のトータルケアを担う。



院長 古屋 直行

親族経営の病院だからこそ、地域の実情が理解でき、医療者と患者さん双方が何代にもわたってお付き合いできる。私自身も地域に必要なとされる専門分野を選び、それがやりがいにつながっています。



北アルプスを望む信州 安曇野の地で、開院から半世紀近い歴史をもつ穂高病院は、地域に根付いた基幹病院。病床数が増え、規模が拡大した現在も、かかりつけのクリニックのような身近さは変わることなく、「気軽に何でも相談できる病院」「安曇野市で唯一お産ができる病院」として広く認知されています。予防医療から看取りまで、地域住民に寄り添うトータルケアを目指すという古屋直行院長に同院の取り組みを伺いました。

医療法人仁雄会 穂高病院  
病床数：127床（一般79床、療養48床）  
所在地：〒399-8303 長野県安曇野市穂高4634  
電話：0263-82-2474（代表）  
URL：http://www.hotaka-hospital.or.jp/

### 勤め帰りにも寄れる身近な病院

当院の地域における位置づけは、「かかりつけの、ちょっと大きな病院」です。たとえ紹介状がなくても、調子が悪ければお勤めの帰りに気軽に立ち寄れる（外来受付は18時まで）。それでいて必要な検査もすぐに行えるし、一定の専門医もいるから、安心・納得して診療が受けられる。そんな病院を我々も目指していますし、家族ぐるみで診ている患者さんも多いので、地域住民の方々もそのように受け止めてくれていると思います。

職員みんなが日頃から意識しているのは「温かな病院」です。当院には創設者の古川仁一郎がつくった「六つの心」という教訓があるのですが、これは、素直な心で人の言うことに耳を傾けるという、聞き上手な医療者の心構えを説いています。また、当院は医師の半数が親族なので元々家族的な雰囲気なのですが、

病院全体も大きな家族だと思っています。

「〇〇さん、調子はどうだい？」「親御さんはお元気？」「〇〇くん、彼女はできたかい？」と普段から接していると自然とコミュニケーションが密になりますし、患者さん

#### 穂高病院の六つの心

- おはようと言う 明るい心
- はいと云える 素直な心
- すみませんと言う 反省の心
- 私がやりますと言う 積極的な心
- ありがとうと言う 感謝の心
- おかげさまでと言う 謙虚な心

やそのご家族と親しくなれば、この人のために一生懸命働こうという気持ちになります。離職率が低く定年まで勤める職員が多いのも、子育て中もお互い様の気持ちで助け合うなど「温かな病院」だからだと自負しています。

### お産から目を落とすまで診続ける ※目を落とす：永眠すること

医療機能として目指すのは、「地域に寄り添うトータルケア」。基本に据えるのは予防医学で、20年ほど前から人間ドック部門を立ち上げ、早期発見・早期治療につなげています。内視鏡医でもある私が2000年に赴任してからは上部・下部消化管の内視鏡検査を積極的に行い、現在では月間で上部500例、下部100例ほどを実施。「まず検査を受けて頂くことが重要」との観点から、



内視鏡検査室は新しい北棟に2室設置し、人間ドックに対応する。

経鼻内視鏡も早くから導入して好評を得ています。ピロリ菌除去にも力を注いできた結果、定期的人間ドックを受けている方の胃がん発生率が低減してきたという実感も得ています。

これまで安曇野

市に常勤がいなかった乳腺甲状腺の専門医が今年1月から当院に常勤となり、乳がんの検査から手術、化学療法、緩和医療まで一貫して行えるようになったことも地域の女性にとって大きなトピックだと思います。

トータルケアには地域医療連携も含まれます。当院で治療できない場合、信州大学や安曇野赤十字病院に紹介するわけですが、例えば手術後に膀胱チューブを付けたまま退院するような場合、患者さんが「自宅に帰るのが不安」というなら、落ち着くまで一旦当院に入院してもらうような中間施設的な役割も担っています。02年に療養病床51床（現在48床）を設けて101床に増床したのも、そうしたニーズに応えるためで、脳卒中等で「リハビリや介護の受入施設が見つかるまで」という患者さんも快く受け入れています。もちろん、地域のクリニックからの紹介も断ることなく受け入れています。

看取りもそうです。終末期の患者さんに「看取ってくれるかい？」と聞かれれば「ここで目を落とせばいいさ」と答えるし、往診も昔から続けています。お産からお付き合いが始まって、健康面から人生に寄り添い、最後はこの病院で目を落とす。そういう、地域の人たちが安心して暮らせる、心の拠り所でありたいというのが当院の根本の方針です。

### 安曇野市内唯一のお産施設

当院は安曇野市で唯一お産ができる病院です。長年、産婦人科医1名で年間400例ほどの分娩を手掛けてきました。「隠すことは何もない。命の誕生の喜びを分かち合ってほしい」との考えから、帝王切開でも立ち会い自由。「仕事の都合で赤ちゃんとおえないなんて寂しいから」と面会時間の制限も特に行っていません。セキュリティなどの面から都会では難しいかもしれませんが、助産師が母親教室などを通じて、家族と顔と顔の見えるお付き合いをしているので、この方針を変えることはないと思います。課題であった医師の負担も、今年4月から1名増員によって軽減されており、来年さらに1名が着任する予定です。

当院では形成外科の専門外来も設けています。今まで非常勤医師



レディースフロアのナースステーション（左から2人目は今年4月に着任した産婦人科医、古川哲平医師）。

師による眼瞼下垂の治療などを行ってきましたが、女性に温かい病院とのコンセプトから昨年より光線治療器を導入して、しみ、そばかす、小じわ、脱毛など、治療の幅を広げてきました。今年4月からは女性の常勤医師が着任し、産後のケアの一環として妊娠線の治療も受けられるようになりました。

### 増改築を進め、レディースフロアを新設

昨年7月に新增設した北棟が完成したのに続き、今年4月には本館の改築も終了して、新装となった穂高病院が全面オープン



北アルプスの眺めが素晴らしい人間ドックホール。20年前から続く人間ドックの利用者は多く、健診終了と同時に翌年の予約をして帰る人も。受診者の最高齢は94歳女性。



人間ドックホールで行われる糖尿病教室。実効ある会とするために人数を制限し、少人数で定期的に開催されている。

しました。これは、産科に対する地域の期待が大きいことから、5年ほど前から構想していた計画で、北アルプスを望める本館最上階（4階）に増床許可を受けた26床を含む産婦人科中心のレディースフロアを新しく設けました。個室中心の病棟で、ゆったり落ち着いた環境でお産ができるようになりました。

新しい北棟には、人間ドック、内視鏡検査、透析（18床）、リハビリテーションの機能を集約。4階の人間ドックホールは、地域の方を招いての病院祭や糖尿病教室にも活用しています。また、各科の検査機能を集めた中央検査室を本館1階に設けることで、受付から検査、診断までの時間を短縮しています。

増築に合わせて「災害に強い安全な病院づくり」も進め、ライフラインが寸断されても最低3日間は透析を含む診療が続けられるように、LPG燃料の大型自家発電機2基と下水道施設を敷地内に設置しました。

医療施設には珍しく、「エコ活動」に取り組むのも当院ならではの。ガソリン使用量や廃棄物排出量の削減、植栽やガーデニングなど幅広く活動を展開し、すでに6年目となります。医療廃棄物の中身を分別して半減するなど毎年成果を上げています。増改築で施設が大きくなったことから、「エコ活動」がさらに意味あるものとなっていますが、それにも増して活動を通じて職員の連帯感や積極性、改善に取り組む姿勢が高まったことに院長として喜びを感じています。地域の医療ニーズに対して感度を高め、地域になくてはならない病院として、さらなる病院機能の拡充とサービス向上に努めていきたいと思っています。

#### ふるや・なおよき

1990年東京医科大学卒業。同年信州大学医学部第二内科入局。91年長野赤十字病院内科、92年飯山赤十字病院内科、93年信州大学医学部第二内科、96年長野県がん検診・救急センター検診部、97年飯山赤十字病院内科、99年信州大学医学部第二内科を経て、2000年穂高病院副院長、11年より現職。日本消化器内視鏡学会（指導医）、日本消化器病学会（専門医）、日本内科学会（認定内科医）、日本人間ドック学会（認定医）などに所属。